

いざというときの身近な危険物の取扱い方



2011年3月11日に発生した東日本大震災では、製油所や多くのガソリンスタンドが被災し、交通などのライフラインも大きな打撃を受けました。このため、ガソリンなどの燃料不足が発生し、普段とは異なるガソリンなどの取扱いを余儀なくされました。このような非常時のときこそ、危険物の慎重な取扱いが重要です。

動かなくなったクルマから、ガソリンを抜き取る行為

東日本大震災の被災地では、灯油用の給油ポンプでクルマからガソリンを抜き取る光景が見られました。このような行為は、適切な安全対策が取られない場合、大変危険です！

危険



灯油用の給油ポンプを用いたガソリンの給油は危険です。また、運搬や保管には灯油用ポリタンクを使用せず、金属製の携行缶を用いてください。二次災害を防ぐためにも、ガソリンなどを皆さんが取り扱う際は、安全に十分注意してください。

ドラム缶からクルマへガソリンを給油する行為

被災し給油設備が破損してしまった一部のガソリンスタンドで、ドラム缶からクルマへのガソリンの給油を余儀なくされました。しかし、満タンになると自動停止する給油設備と違い、こうした方法では入れる量が分かりにくいいため、ガソリンが給油口からあふれ出てしまう危険性があります。さらに、非常時には、通常のように

しっかりとした安全対策がとられていないことが多いため、火災の危険性が非常に高くなります。

ドラム缶からガソリンを給油する際は、専用ポンプを使うこと、ドラム缶を地面に接地するなどしてアースをきちんと取ること、周囲に防火上十分な空き地を確保すること、火災に備え消火器などを準備することなど、十分な安全対策を講ずる必要があります。

もし、ガソリンなどの火災のときに、消火器がなかったらどうすればいいの？



そんなときは、身近にある土をかける方法があります。これは、ガソリンなどが燃焼するのに必要な酸素の供給を絶つ方法で、危険物の火災をはじめ、一般の火災にも有効です。



身近な危険物の取扱いについての正しい知識を身につけると同時に、消火器を用意しておくなど、普段からいざというときの火災に対する「備え」と「心構え」が重要です。

